

父の意のまま、娘の人肌

蝕人境界



R18

成人向け

18歳未満
購入・閲覧禁止

あなたがたの子どもたちは
あなたがたのものではない。
彼らは生命そのものの
あこがれの息子や娘である。
彼らはあなたがたを通して生まれてくるけれども
あなたがたから生じたものではない、
彼らはあなたがたと共にあるけれども
あなたがたの所有物ではない。

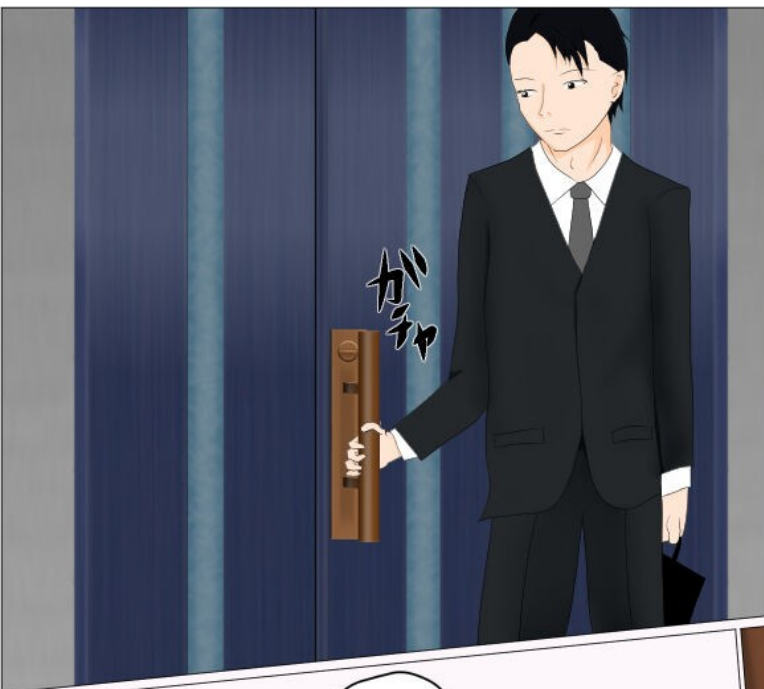
Your children are not your children.

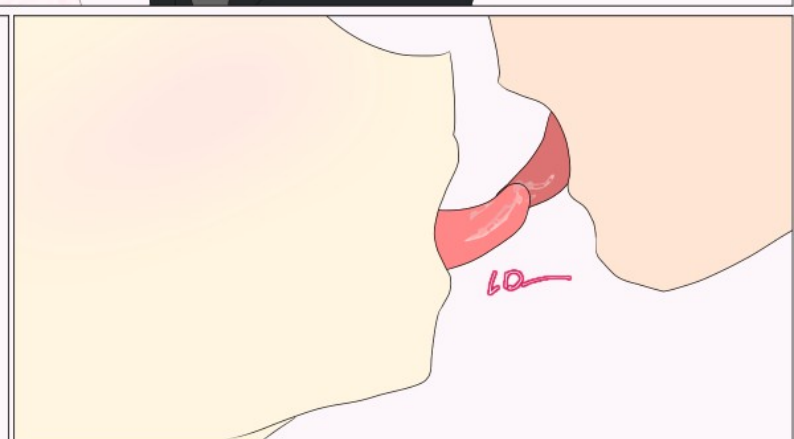
They are the sons and daughters of Life's longing for itself.

They come through you but not from you,

And though they are with you yet they belong not to you.

——『ハリール・ジブラーンの詩』(神谷美恵子/訳 角川文庫)
『THE PROPHET』 By Kahlil Gibran







無理やりな関係ではなく
俺たちは愛し合っている

文化祭の日
休み取れたよ

ほんと？
よかった



娘のまなと俺は
実の親子でありながら
近親相姦をしている



罪悪感がないといえは嘘になる
だから拒絶されれば
やめるつもりでいるが

幼い頃に手を出してから
これまで本気で
抵抗されたことはない

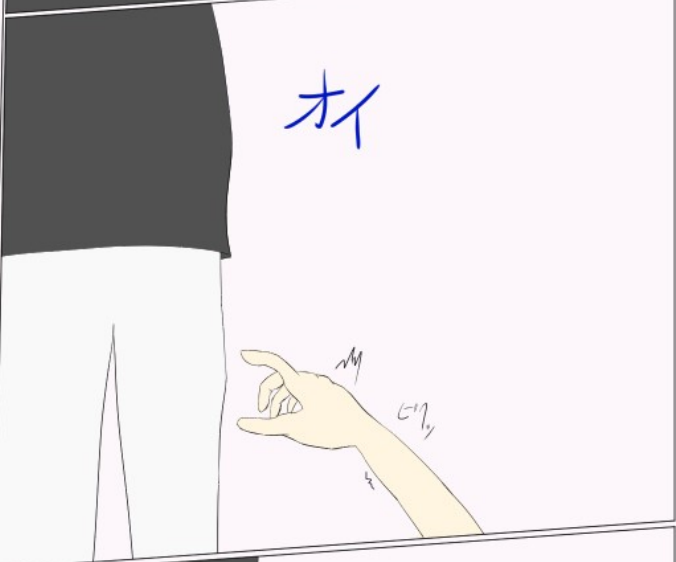
もちろんはじめての時だって
近親相姦の異常性は
教えた上で事に及んだ

それでも愛していることを
伝えたら戸惑いながらも
受け入れてくれた

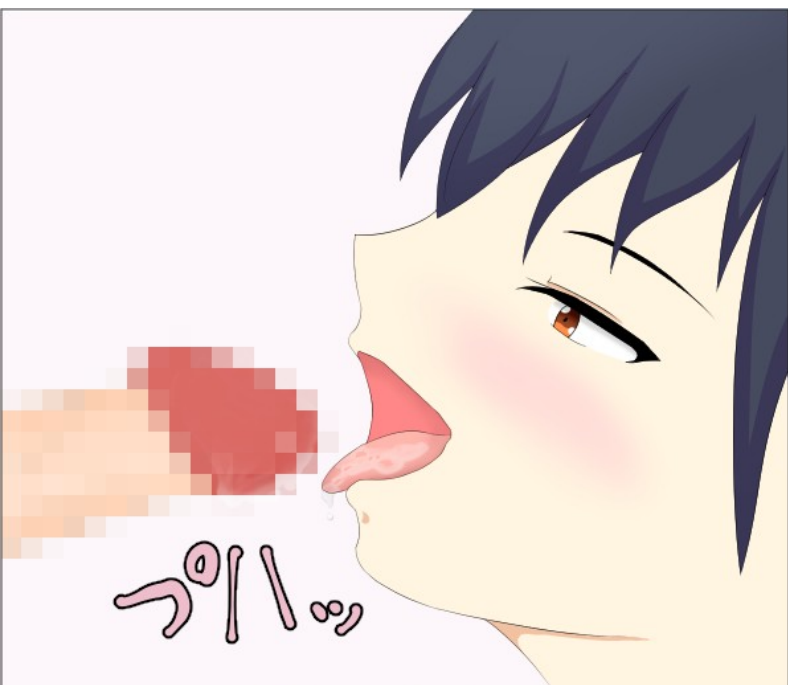


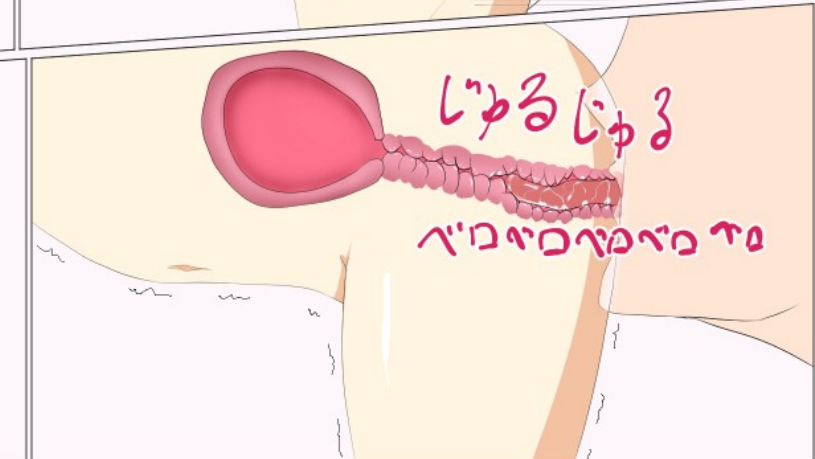
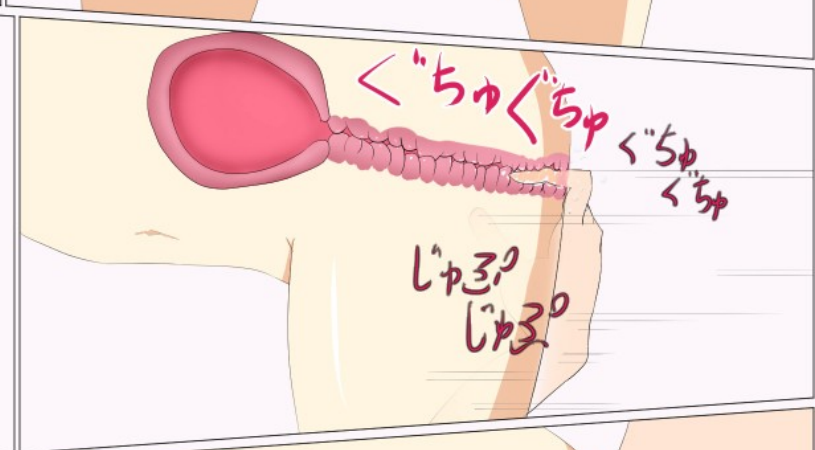
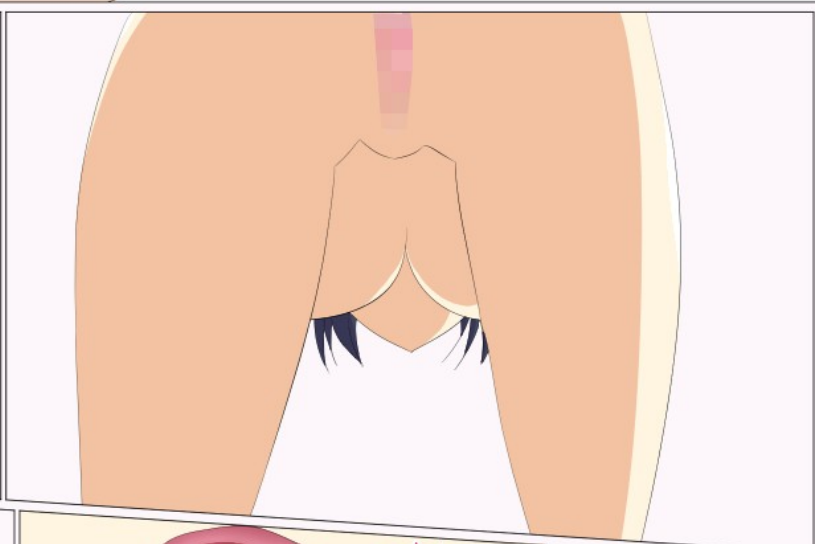
娘が演劇部なのもありここ数年は
設定ありでのセックスを楽しんでいる
今日は犬と主人という設定だ

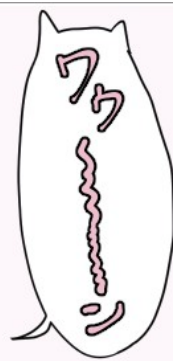
ア……ン!!











口が止まってるぞ
どうした？



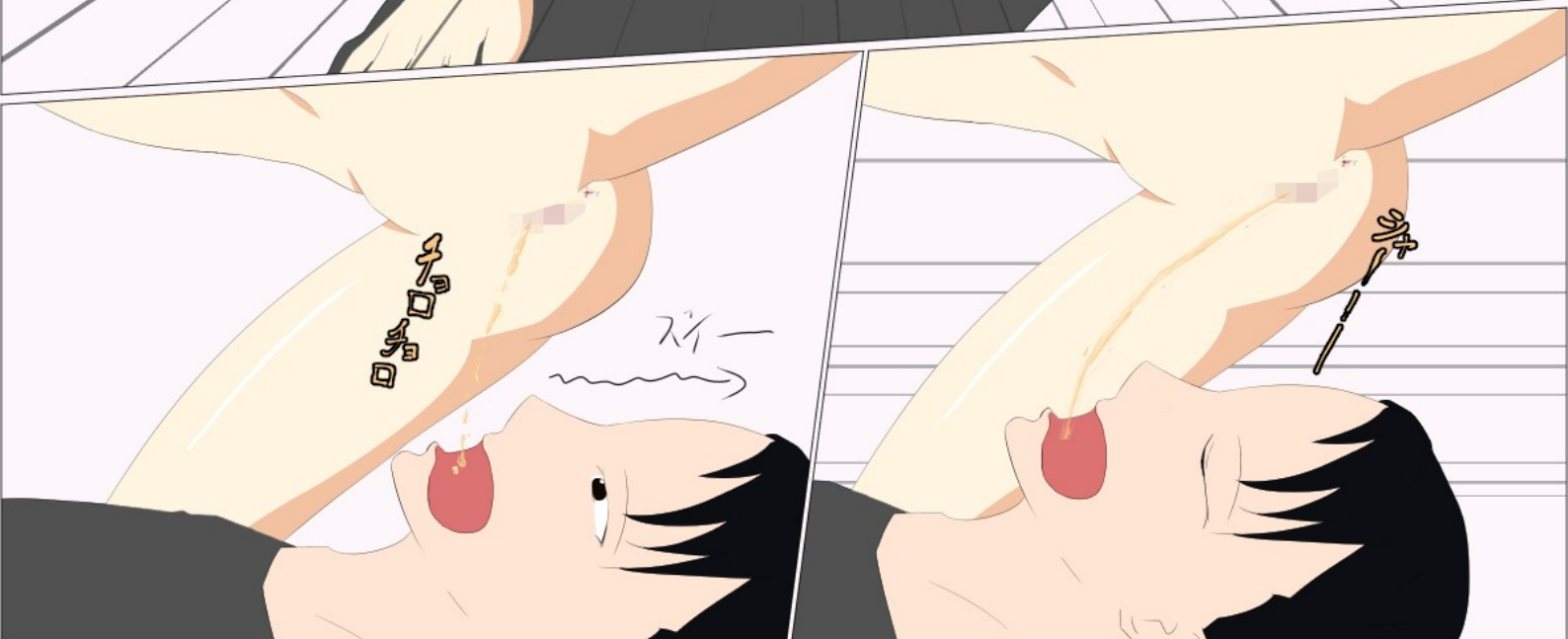
なんだ？
おしっこか？
役作りが
徹底してるな



行かせない
俺に飲ませろ



うん





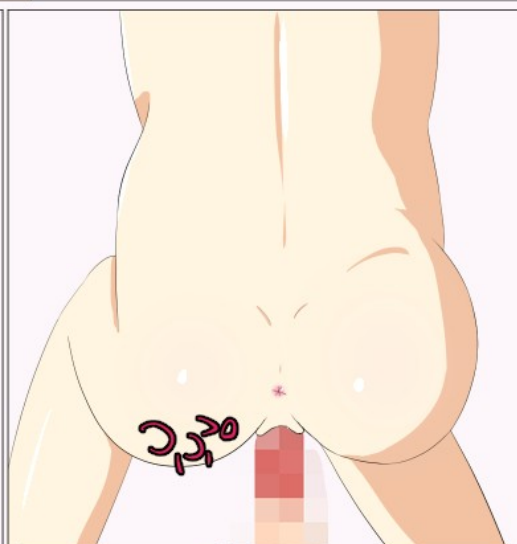
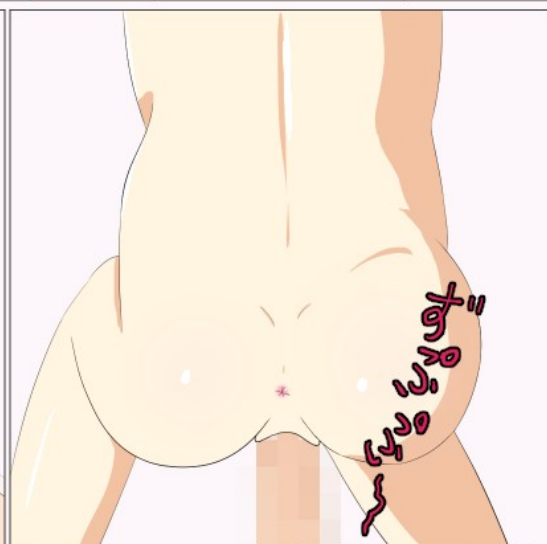
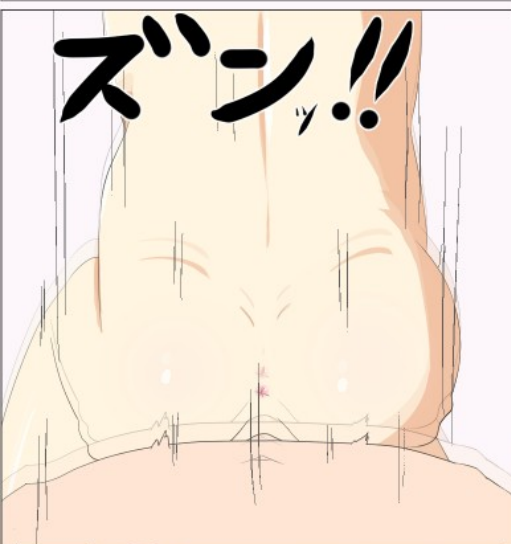
バウツ!



匂いも味も
最高だ



あー
びしょびしょだ
これはおしおきが
必要な



——娘を乱れさせたい

ズッ

ズチュ
ズチュ

ズッ

あっ♡

ん

あ

ここ数年はごっこプレイしかしてないが
結局素になる瞬間が好きだ
演技を忘れるくらいに感じさせたい

この思いは贖罪か

ただの性癖か

ズチュ
ズチュ

あま♡

ギシ
ギシ

パン

ん♡

ふっ♡
ふっ♡
ふっ♡

ん♡
ん♡
ん♡

娘の愛を試しているのか

許しが欲しいのか

スポン

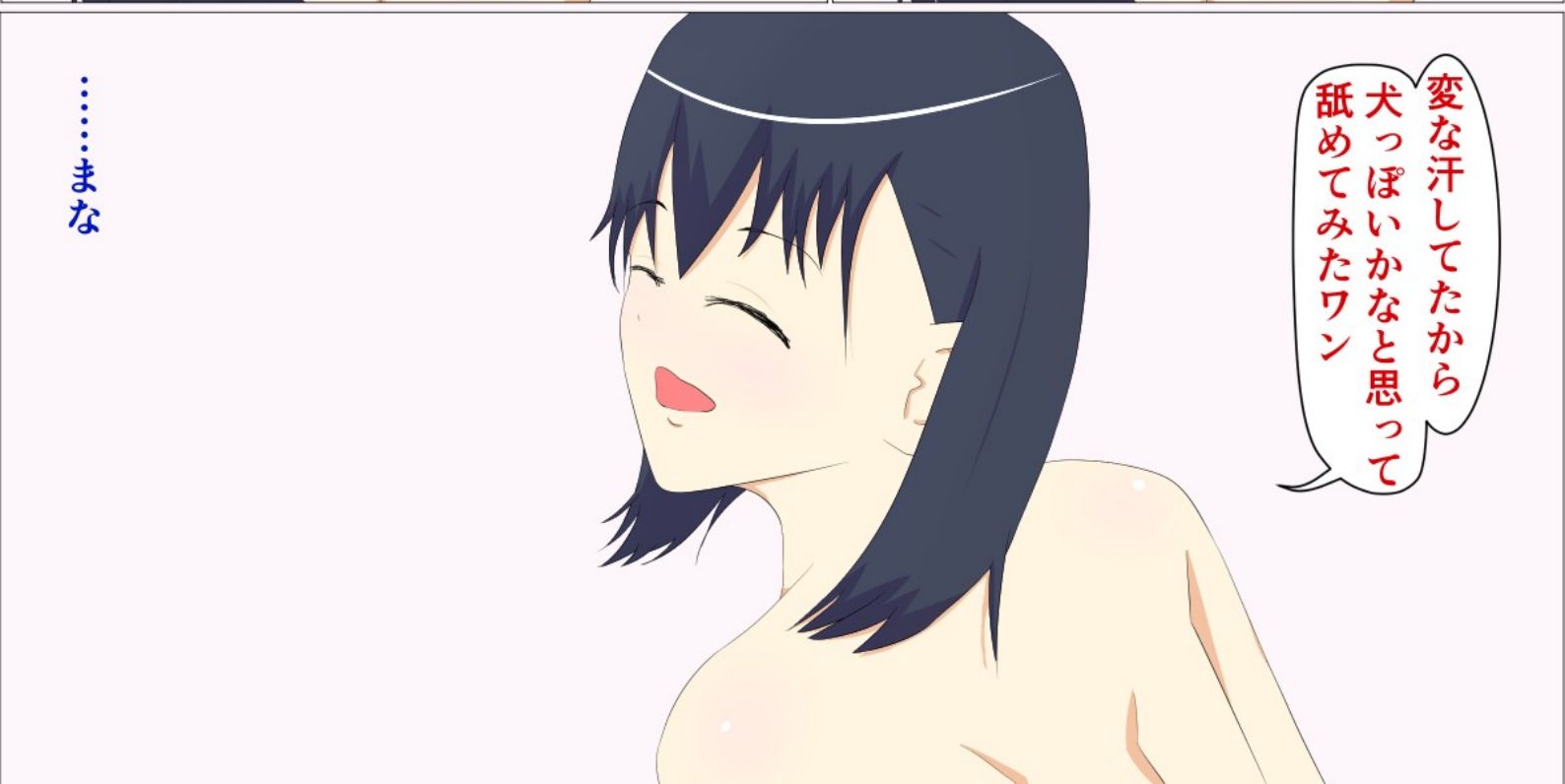
違う

どれも違う

おっ

娘の幸福を願うのは父親として普通なことだろう？





変な汗してたから
犬っぽいかなと思って
舐めてみたワン

……まな





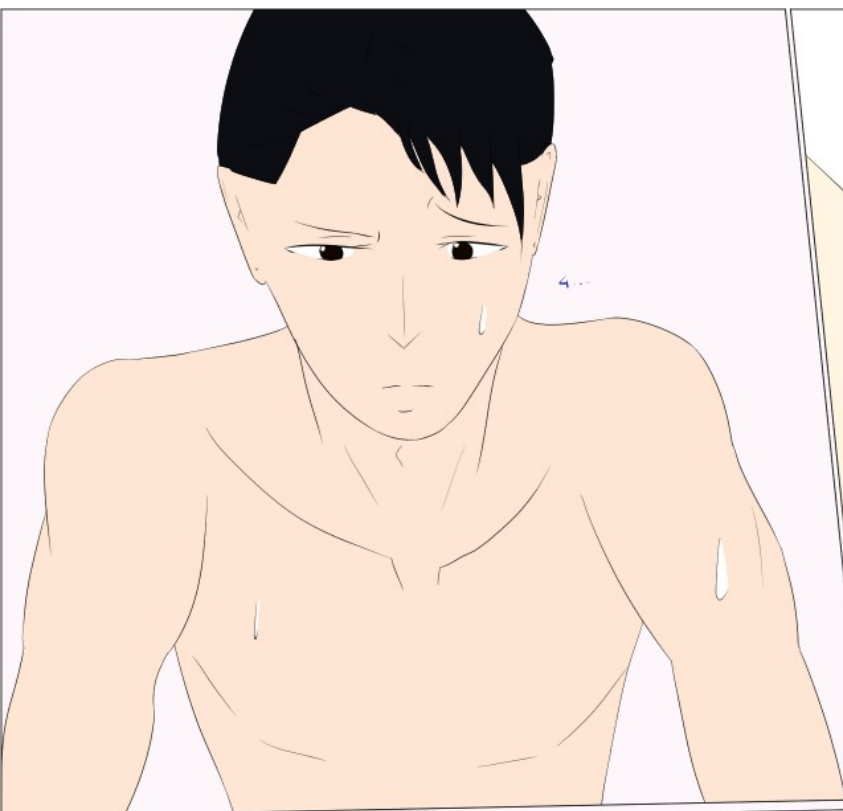
入れるぞ

うん

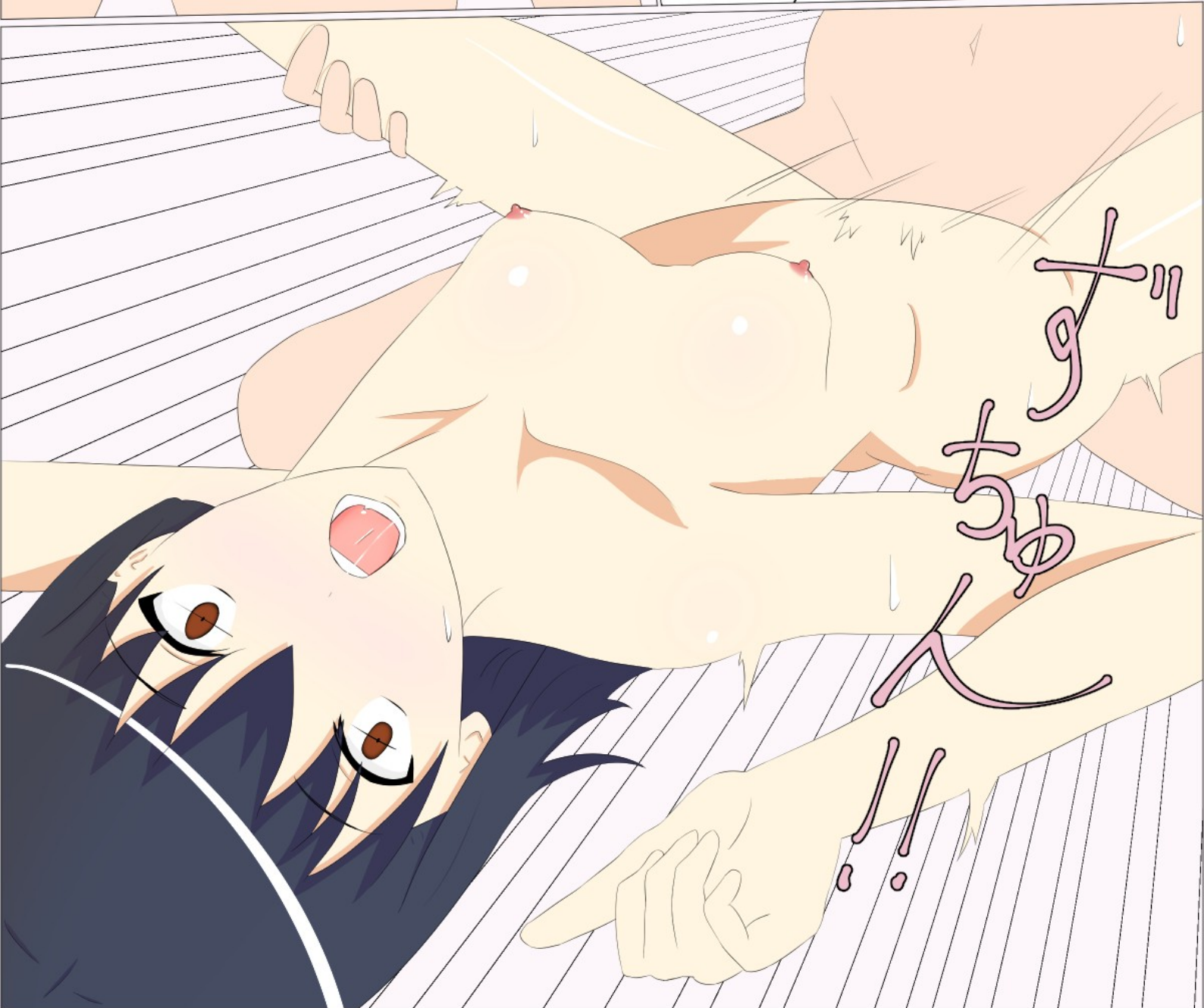
スッ

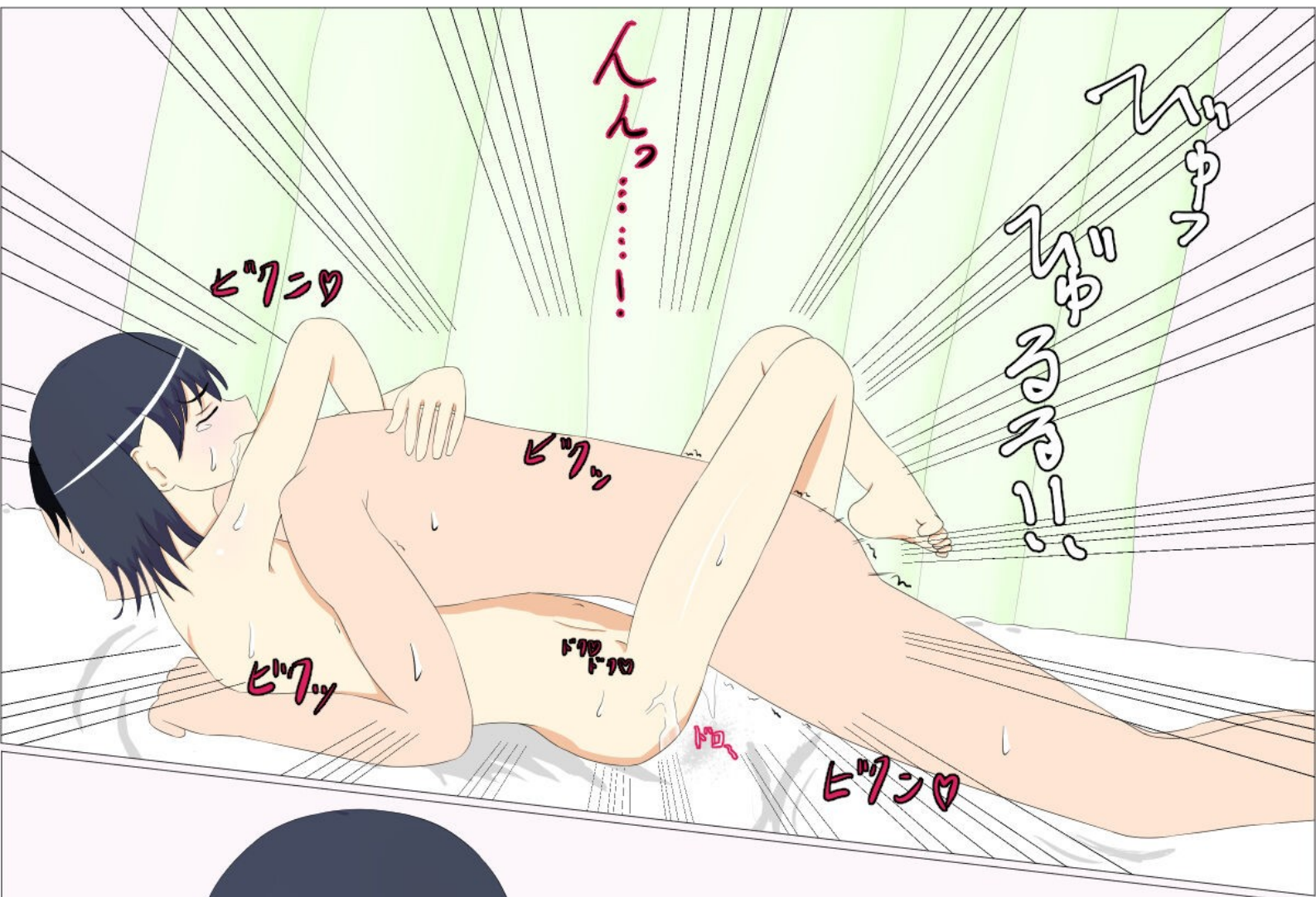
んふっ

どうした?



お父さん
さっきより
大きくなってる







——文化祭当日。

まなは演劇部としての出し物の主役だった。

その劇はとても不思議なものだった。

説明は一切なく、まなが何かを探し回っているところから始まる。

場所は広い和式の部屋。まなの服装も和服だ。

よく見ると、泥棒だろうか。

そう思うと荒々しく何かを探す様がぴったり当てはまる。

しばらくして、後ろから声をかけられる。

照明が当てられ、椅子に座った老婆が現れる。

「あなたは、誰だい？」

「私は……まな」

「ああ、女の子かい」

老婆は目が不自由なようだ。

「あの、緑の箱はどこにあるんですか？」

まなは丁寧にそう言う。

随分と大胆な泥棒だ。

いや、それとも泥棒という推測が間違っていたのか？

「緑の箱……親の置き土産のことかい。さて、どこにあったんだろうか」

「中には何が入っているんですか？」

「さあ、何が入っているのやら」

「中身に興味があるんです」

「そう言われても……開けたことも、触れたこともない。

見た記憶さえも朧気で……」

緑の箱……物語の世界では価値のあるものなのか、
まなはなぜそれを欲しているのか、謎は謎のまま、暗転。

背景が朝、昼、夜と変わる。

部屋には老婆一人。あとから幼き男の子。

「やあ、久しぶり」と男の子。

「え？ 誰だい？」老婆がゆっくりと聞き返す。

「ほら幼馴染の」

老婆は幼馴染の男の子の名前を呼び、

嬉しそうに思い出話に花を咲かせる。

男の子は明らかにまなの変装だが、目の不自由な老婆は信じてしまう。

変装したまなは緑の箱のことをそれとなく聞こうとするが、

老婆は昔の話ばかり。

まなは老婆が緑の箱を隠していると思っているようだ。

そこから、まなは様々な変装で部屋を訪れる。

その度、老婆はその人物との思い出を語る。

対話形式で老婆の人生が描かれていく。

初恋の男の子、仲の良い友達、お世話になった先生、

恰幅の良い軍人、両親や親戚……

まなは老婆に怪しまれることなく、その役を演じる。

どこで老婆の知人の情報を得たのか、

改めてまなという登場人物が謎に思える。

別の演劇部員も出てきた。

変装という設定で全部員でるのだろう。

俺の変装も出てきた。それから次々と親の姿で現れ、観客がどよめく。

「(あの中身は・・・まな、なのか?)」

もはや誰が出ているのか分からないほどの変装だった。

老婆の人生が現代まで至り、まなは変装する人物がいなくなり、

そのままの姿で現れた。

「話を聞いてくれてありがとう、まな」

まなは肩をビクッとさせる。老婆は変装に気付いていたようだ。

「そういえば、まだ私の名前を言ってなかったわ。私の名前はまな」

「え？」

「今は私の若い時の姿をしているのでしょうか？」

老婆はそう言ってまなの顔に触れた。

すると服だけが残ってまなはいなくなってしまった。

老婆は寂しそうに言う。

「彼女の本当の名前はなんだったのかしら」

幕が閉じる。

人格はいつ、どこで生まれるのだろう。

遺伝的に決まっているのだろうか。

いや、完全にそうとは思えない。

やはり生活の中で自我を持ち、人格が形成される。
周りの環境こそが人格の大部分を形作るのではないか。
特に幼少期に見本になる親は重要じゃないわけがない。
まなは俺の教育の影響を受けすぎている気がする。

まなは果たしてどこにいるんだ？

まなの人格はどこへ行った？

あれが本当の人格か？

もう何年もごっこプレイしかしていない。演技ありのSEXだけだ。

俺の命令にはどんなことでも従う。

俺のことを好きだというまな。愛しているというまな。

あれは本心か？ 演技ではないのか？

何を馬鹿なことを考えている。そんな演技をする必要がどこにある？

……いや、まなは、それが必要だったんじゃないか？

父親から性的な行為を強要されるなんて嫌じゃないはずがない。

だが親に抵抗するのは難しい。ましてまだ幼いときに。

あのとき、まなは何を思ったのだろうか。

怖いし嫌だったかもしれない。しかし、誰にも言えない。

言ったらどうなるか、あの年齢ならなんとなく分かっていただろう。

そうして孤独になったまなは、俺を受け入れるようになった。

……洗脳だ。これじゃあまるで洗脳だ。

まなの今の人格は俺に洗脳されて形成されたものだ。

彼女の意志もこの状況では彼女自身のものと認めがたい。

やれと言われればやり、だめだということはやらない。

それだけならまともな子供と言えるが、

性的な関係まで許すのは明らかにおかしい。

違う……俺が、おかしくさせたんだ。

そう、俺の教育でまなはああなった。責任は俺にある。

俺がこの関係を終わらせよう。簡単だ。

——俺の言ったことにはすべて従うから。

文化祭どうだった？

ああ楽しかったよ
まなの演技も見れたし
話は父さんには
難しくてよく
わからなかったけどな

どの変装が
一番良かった？

全部良かったよ

一番えっち
だったのは？

えっち？

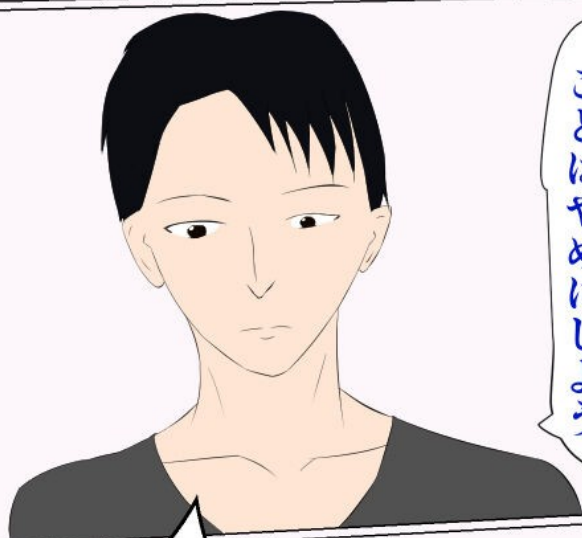
お父さんのことだから
コスプレエッチしたく
なったんじゃない？

いやーエロい目で
見てたわけ
じゃないからなあ
むしろ逆のことを
考えていたくらいで

逆？

まなもうエッチな
ことはやめにしよう

普通の親子に戻ろう



え？
なんで？
どうして？

ちよ落ち着け

落ち着けないよ
ねえなんで？
なんで？

よくないだろ
近親相姦なんて

今更がすぎる！？
どうして？
誰に迷惑かける
わけでもないよ？

普通はしないだろ

普通がすべて正しい
とは思わないけど



だとしても性的虐待は
良くないだろ

虐待だと思ってたの！？
愛し合っていると
思ってたのに



いや愛してるけどな……
世間はそう思わないだろ

世間なんて
私達二人の愛には
関係ないよ



あんまり
言いたくはないが
その愛だってな
純粹なもの
ではないだろう

子どもの頃
性的に迫られて
誰にも相談出来ずに
悩んでいた
時期があっただろ



……それは子どもの頃だし

やっぱりそうだろう
俺はそれをなんとなく
察していたけど
やめられずに
今まで関係を続けてしまった

これは立派な性的虐待だ



でも今は違う

そりゃ子どもの頃は悩んだよ
たくさん考えて
苦しんだよ

だって意味分かんなかったもん
近親相姦はやっちゃだめ
でも愛してるからって
どうすればいいか分からなかった

………すまない

私はもう子どもじゃないから
虐待だと思ってたら
今頃お父さんはお縄だよ

でもそうになってない
それは私がお父さんのこと
好きだから

………状況が状況だ。
好きにならざるを得なかった
とも考えられる

お父さんは
私のこと子どもの頃
から好きだったんだよね？

ああ

親子の枠を超えて愛してた？

ああ

今はもう違うの？

いや、愛してる
愛しているけど……

変態的なことも
親という関係も
置いておいたら
優しくて格好良く
大切にしてくれて
ずっと愛してくれてる男性を
好きになるのは
変じゃない気がするけど



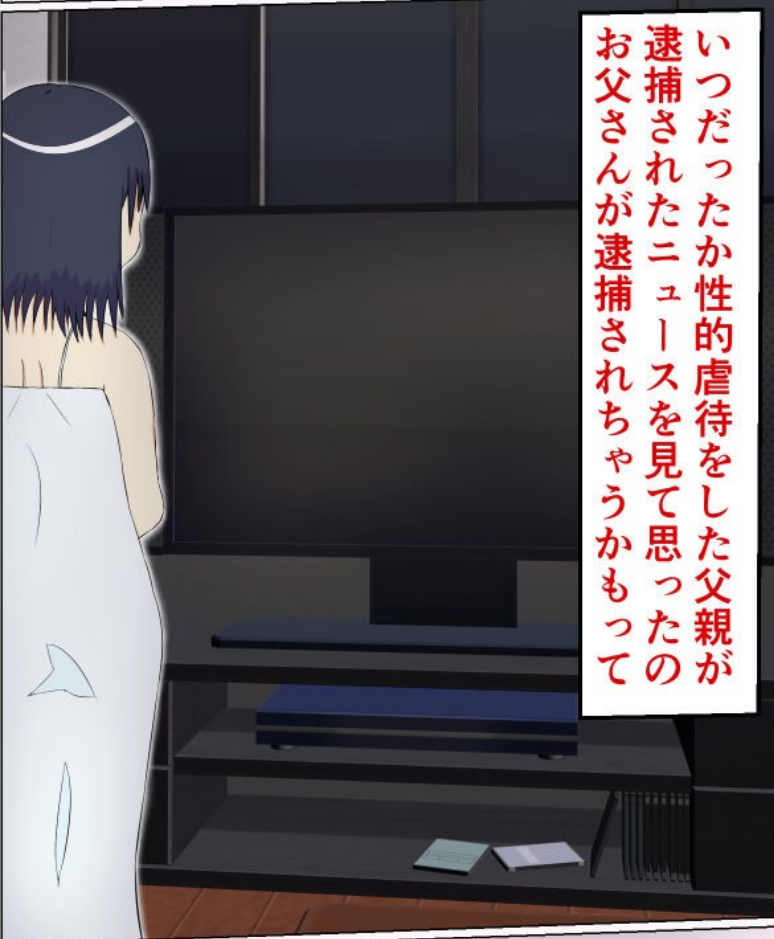
性のはけ口にされるだけされて
それでお父さんのこと好きー
ってやってたら弱い立場の人間を
洗脳してるように見えるけど
そうじゃないから
あんま気にしすぎるのも
良くないんじゃない？

いやでももう
ちよつとよく考えて……

すごい考えたよ



いつだったか性的虐待をした父親が
逮捕されたニュースを見て思ったの
お父さんが逮捕されちゃうかもって



そのときにはもう
お父さんのことが
好きだったし
エッチなことも
嫌悪感がなかったから
怖くなった
もう会えなくなるなんて
嫌だった



私はお父さんのこと
こんなにあ愛してるのに
大人はおそらく
信じてくれない
親子という立場や
状況が作り上げた
偽物の愛として
扱われるんだろうなって

だからこの愛を
証明しなきゃいけなかった
純粹な私の気持ちを見つけようと
私は私だけになるまで
私を細分化していった

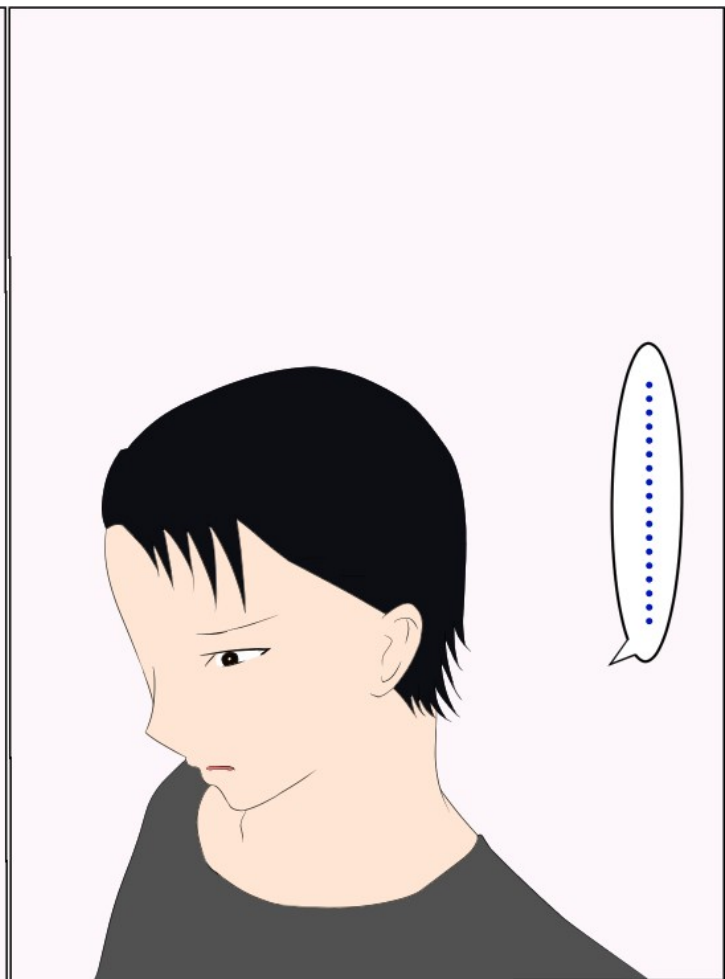
だけど私という最小単位は
どうしても見つからなかった

物事に対する考え方
一つとっても
今までの経験が
入り込んでいる余地を
否定できなくて

私らしさにたどり着くと
それはどんなことでも
お父さんや友達や
先生や学校や家や街
いろんなものの
思い出や経験が
その私らしさを
作り上げていて
私は存在しなかった

ほか全ての寄せ集めが私なんだって
でもそれが普通のことだって気づいた
そうでしょ？
誰しも独りで完結してる人はいない
いろんな人の影響を受けて
その人が出来る上がる
だから結局愛の証明なんてくだらない
考えたって仕方ない

私はこれからも
お父さんと一緒にいたいし
エッチしたいし愛し合いたい
そう思っている私が今ここにいる
それが一番重要なこと









ねえなんで固くしてるの？

あいや

お父さん
変態サイテーきもー
娘に剥かれて
興奮してるんだ

おしおきだね

!?



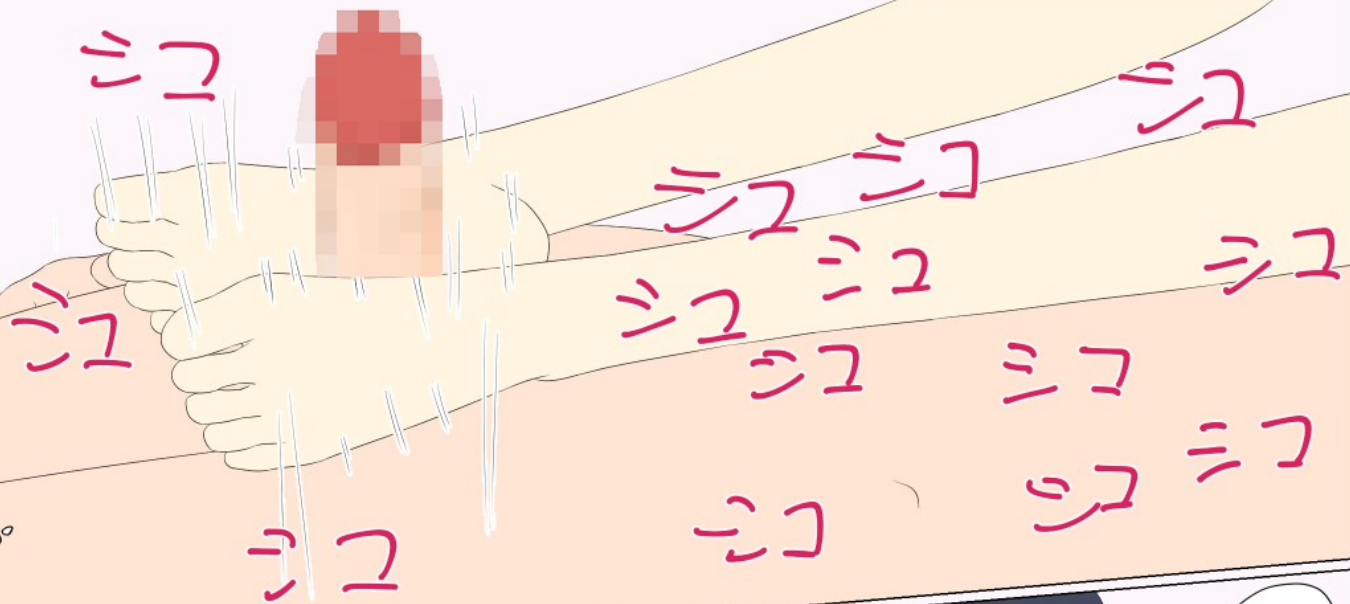
変態お父さんには
足で十分

ノリでやっちゃったけど
足は初めてだなあ

うわあ
すごい脈打ってる……
それにあったかい
手で触るより体温が伝わってきて
なんか新鮮……

へー

手でやるときみたいにな下に
こすればいいよね？



どうお父さん
気持ちいい？



ひゃっ



ちよっ
ちよっ
ちよっ！

じっとしててって
言ったのに！



どこ舐めてるの！
えっち！

ちゃー♡

ふっゅ
ぐゅ

ぺろ
ぺろ

さっきまで

ニコ

ニコ

ニコ

ニコ

ニコ

やめるって言ったのに！

かーん

足でイッちゃえ！

ニコ♡

シュ♡

ニコ

ニコ

娘のま○こ
そんなべろべろしてっ！

娘のま○こ

ぺろ

ぺろ

えっちなこと

ぐゅ
ふゅ
アチャ
アロ

ぺろ

クハッ♡

バカ！

ニコ♡

シュ♡

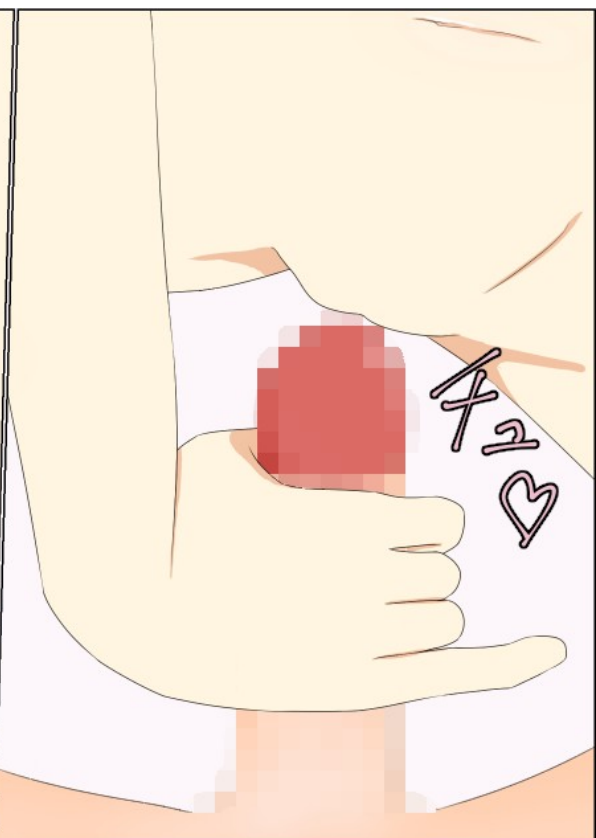
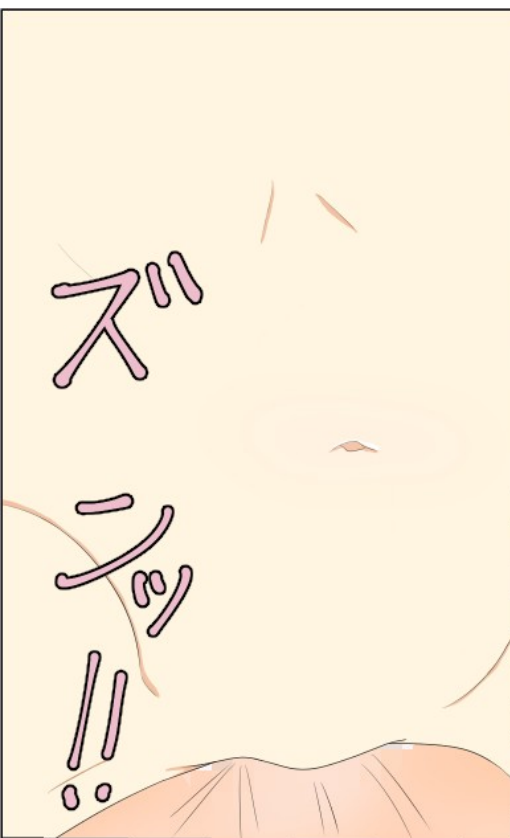




それじゃあ
入れよっか

あ待て
それは

え？ あ
まだそんな事言うんだ
ま〇こ
舐めてたくせに



お父さんの精子まみれおちん○ぽ
まなの中に生で入ってるよ

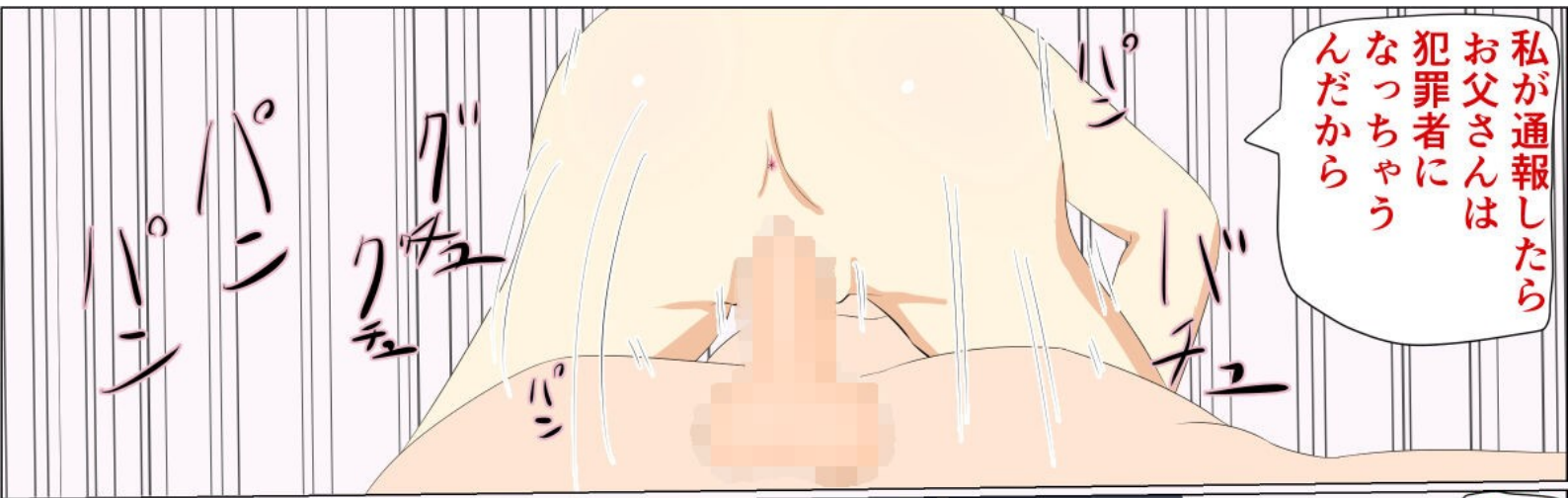


あーあ
結局また
しちゃったね



抵抗しようと思えば
出来ただろうに
しなかったね



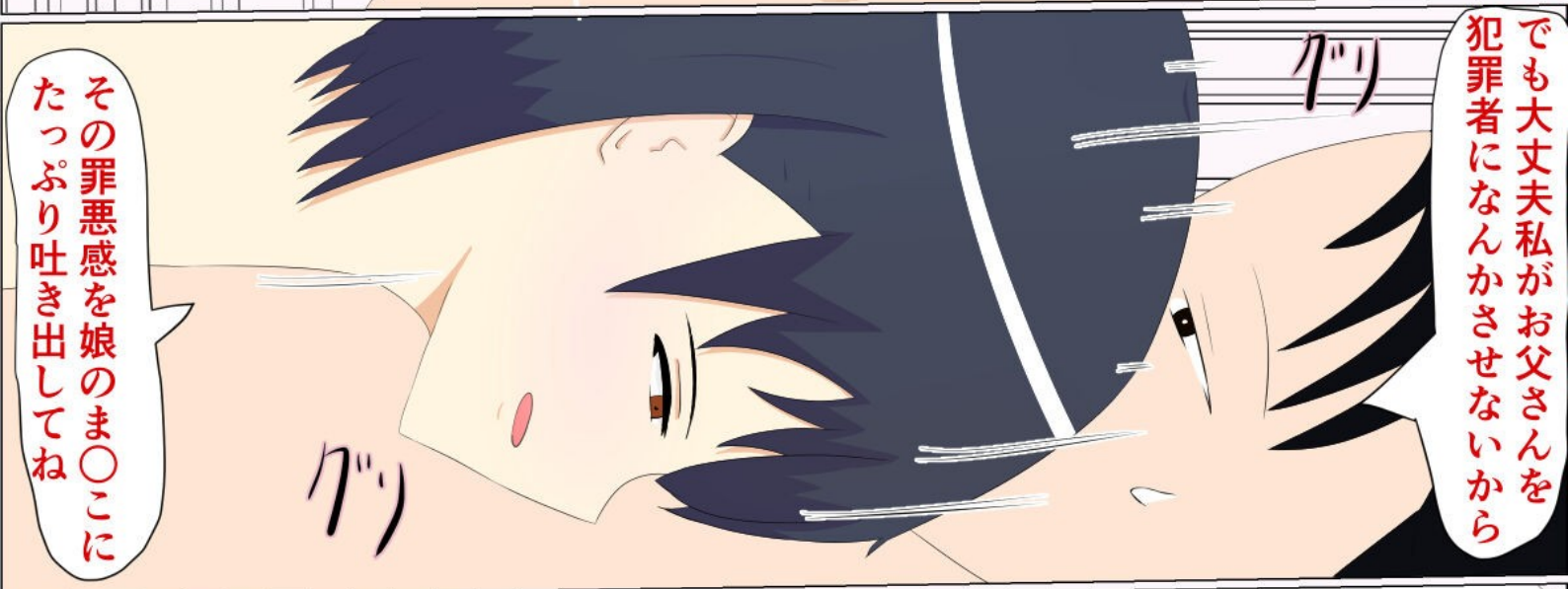


私が通報したら
お父さんは
犯罪者にな
っちゃう
んだから

パン
パン
パン

グ
グ
グ

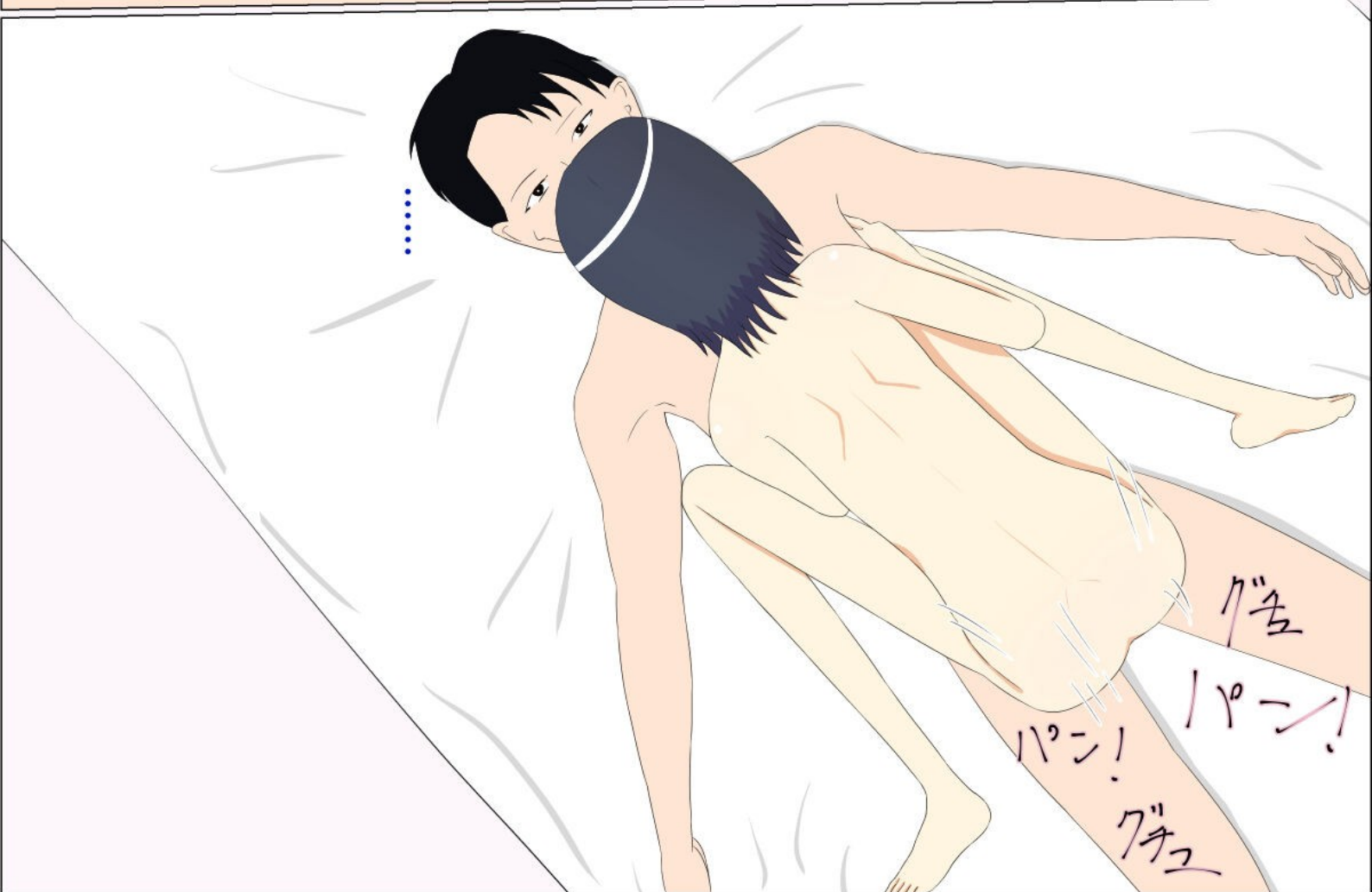
パン
パン
パン



でも大丈夫私がお父さんを
犯罪者になんかせないから

その罪悪感を娘のま○こに
たっぷり吐き出してね

グ
グ
グ



グ
グ
グ

パン
パン
パン

もう知るか！
犯してやる！



逆上したお父さんに
私は
幾度も犯された

これが
欲しかったんだろ！
変態娘が！

お父さんのせい
なんだからあ

人のせいにするんな！
お前はもともと淫乱だ！

荒々しく
獣のような
セックスが長く続いた

口ではそう言うが
膣が閉まったぞ！
体はこの状況を
楽しんでるな！

いやあ
カーテン閉めて

お前の変態さを
ご近所に見せてやれ

何度も何度も
私の中に入ったり出たり……

まるでオナホだな
嬉しいか？

うん嬉しい
私はお父さんのオナホお！

中に出してやる！

私もイクう

スチュ
スチュ

ズン
ズッ
ズ

体も心も膣も
お父さんに形作られていく

一回出したら終わりだと思ったか
まだまだやるぞ！

た

イッたばっかなのに！

グチュ

ハ
ン

ズン！

ズッ！

ズン！

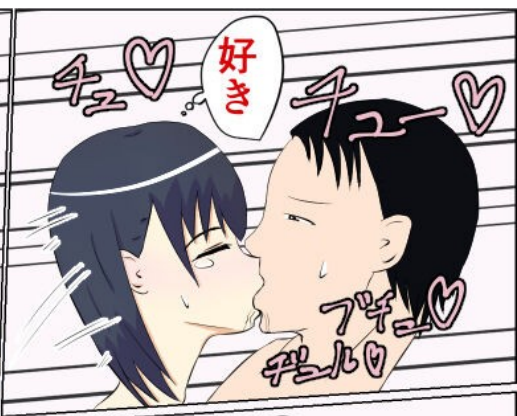
グチュ



お父さん
好き



好き



好き



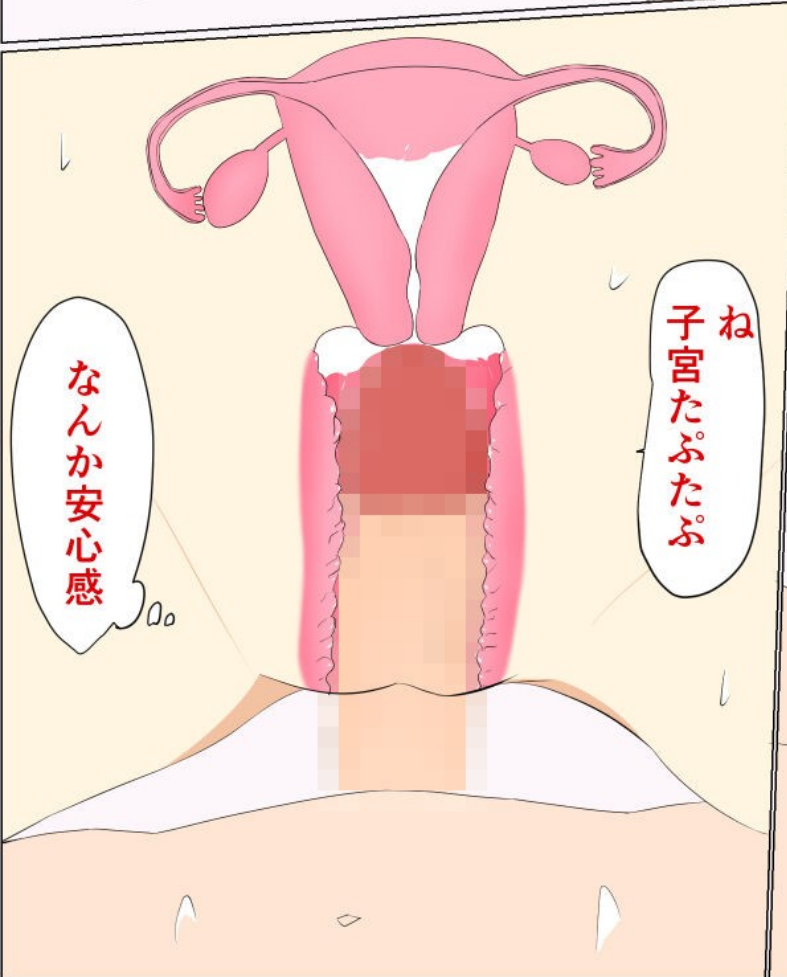
まな愛してる

私も愛してる

もうHやめる
なんて言わない?

もうまなのこと
離さないからな
覚悟しろ

えへへ
やったあ



ね
子宮たぷたぷ

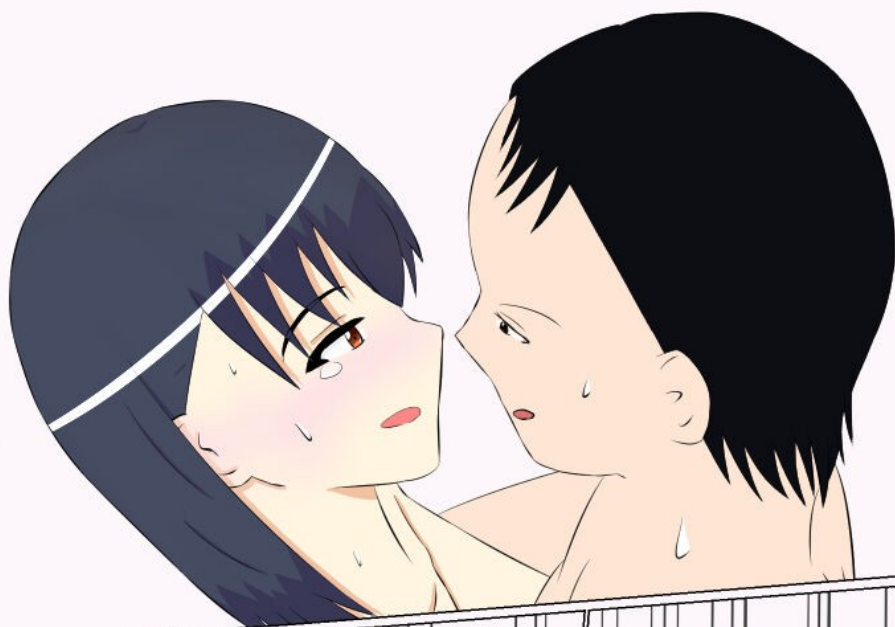
なんか安心感



それにしても
こんなに出したのは
久しぶりだな

最後の一発も
中に入れてやる

うん
中に欲しい



まな!

お父さん!

グチュ♡

まな!

グッ♡

お父さん!

アッ♡

グチュ♡

出すぞ!

アッ♡

ンフ...♡

グッ♡

グチュ♡

お父さん!

まな!

アッ

ン♡

アッ

グッ♡

グチュ♡

グッ♡





fin.

